

もう食べられないお米

長与町立長与中学校 二年 渡邊 零

私の家では山口県のおじいちゃんとおばあちゃんにお米を送ってもらっています。昔は山口県のおじさんとおばさんがつくったお米をもらっていました。おじさんはおじいちゃんのお兄さんです。おじいちゃんの隣の家に住んでいます。おじさんとは年に二回しか会えないけれどいつも優しくしてくれました。私の家ではおじさんがつくったお米を毎日食

べていました。新米ができたときは新米を送ってくれました。すごく美味しかったです。けれど、だんだんおじさんの具合が悪くなってお米がつくれなくなっていました。最後はおじさんのお米を食べたのがいつだったかは思い出せません。もうおじさんのお米を食べることができないのがすごく悲しいです。いつも食べていた当たり前の味が急になくなるとするのは初めての体験で、最後と分かっていたらもう少し味わって食べていたのかな

と思います。

私の学校では長与をより良くするために取り組みとして「長与レボリユーション」という総合の時間を設けています。私は文化班で長与の郷土料理について活動しているところです。

中学一年生の初めての「長与レボリユーション」の時間。各班の担当の先生について発表がありました。私たち文化班の先生は二人で、一人は国語科の先生、もう一人は美術科

の先生でした。国語科の先生とは「長与レボリユーション」の時間では関わりがなく、どんな先生が全く分かりませんでした。そんな不安な中、文化班のみんなの前でその先生がある話をしてくれました。

「私は今でも後悔していることがあります。この一言で下を向いていた目が自然と先生の方に向きました。先生は島に住んでいた頃の話をしてくれました。毎日おばあさんの味噌汁が出てくることが当たり前になっていた

ようです。そんな中おばあさんが亡くなり、急におばあさんの味噌汁を飲みたくなったそうです。そのとき色々な人におばあさんの味噌汁の作り方を聞いても分からず、一生おばあさんの味を食べることはできませんでした。『あの時、レシピを聞いていればおばあさんの味噌汁を今でも食べることができたのに。』と後悔していることを教えてくれました。この話を聞いてすぐ心に響きました。『今過ぎしている環境が当たり前ではない。食を大事にしていきたい』と思いました。けれど、そう思う気持ちが弱かったのか、続けることができませんでした。

『当たり前前の味が急になくなることがある』ということを実に気づくことができた今、ご飯の時間を大切に一つ一つの食材に感謝して食べようと思えるようになりました。そう思うようになったせいも、前よりもご飯が美味しいと思うことが増えたような気がします。す。お米の値段が高くなっていること、所持

するのが難しいことなど、お米の課題点がたくさんあります。今、お米を食べることができているのは数年後では当たり前じゃないかもしれません。

今は、おばあちゃんが知り合いから買ったお米をもらっています。おばあちゃんが送ってくれているお米もおじさんみたく一生懸命誰かが作ってくれたお米です。おじさんのお米もすごく美味しかったけど、今食べているお米もおいしいです。名前も顔も分からないけれど、誰かがつくってくれたお米のおかげで私たちは美味しいご飯を食べることができています。ご飯を食べられることに感謝して食べて、楽しい食を築いていきたいです。